

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月9日

【評価実施概要】

事業所番号	874400310		
法人名	タカラケア株式会社		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	北相馬郡利根町早尾6 1 0 - 1 (電話) 0297-61-8170		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1 9 1 8茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年2月13日	評価確定日	平成20年7月9日

【情報提供票より】(平成20年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月28日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤	10人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.11人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (180,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成20年1月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.3 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤代病院、早尾台病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「明るく・楽しく・穏やかに」を理念とし、職員はゆったりとしたやさしい態度で利用者者に接するよう心がけている。
 介護計画はアセスメントに基づき、利用者の過去の経験を生かして家族の意向も反映しながら作成している。
 地域の老人会や小中学校・高校など地域との交流も活発に行っており、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスを目指しているが自治会、町内会との連携及び理解を深めることが課題となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査において緊急時の対応について職員が不安を持っていたがマニュアルの整備と研修の実施により改善されている。 また、健康診断の受診を薦められていたが利用者全員がかかりつけ医の治療を受けており、健康面の支援は改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、その結果を掲示して周知を図るとともに共有して評価を生かした具体案の検討や改善に取り組み、実践につなげるための努力をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利根町や町内会、自治会の役員や民生委員の人々に運営推進会議の参加を呼びかけているが、参加を得て開催するまでには至っていないので、行政と連携を密にして地域の方々の協力のもと、運営推進会議の開催が望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の健康状態や金銭管理について電話や文書で報告している。 また、家族会を開催して意見や要望を受け入れている。 玄関に意見箱と用紙を設置して意見や要望を受け入れている。 重要事項説明書にホームの苦情相談窓口及び外部苦情申し立て機関(経営主体)を明示するだけでなく行政の関連部課、国保連などの第三者苦情相談窓口を明示することが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学校の運動会や敬老の集いなどの参加や、高等学校の吹奏楽の演奏を楽しむなどの交流をしている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住みなれた地域で、その人らしく明るく楽しく穏やかな生活が継続できるよう、介護理念を基に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に勉強会やミーティングを行って共有化を図り、具体的な課題を立てて理念を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校の運動会や敬老の集いなどへの参加や、高等学校の吹奏楽の演奏を楽しむなどの交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価及び外部評価の結果を掲示し、職員に周知している。 また、前回の評価で指摘された改善点を職員に伝え、具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利根町や町内会、自治会の役員や民生委員の人々に運営推進会議の参加を呼びかけているが、参加を得て開催するまでには至っていない。	○	20年3月に第1回の運営推進会議の開催予定であるが、行政と連携を密にして地域の役員や民生委員と連携を図るなどにより、開催することが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を受け入れるとともに、必要に応じて町の担当者と話し合いをしている。	○	町とは運営推進会議の開催について、より緊密な連携が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や金銭管理について電話や文書で報告している。 また、「ひなたぼっこ便り」を発行し、配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談窓口及び外部苦情申し立て機関を明示している。 また、家族会を開催して意見や要望を受け入れている。 玄関に意見箱と用紙を設置して家族等の意見が反映できるようにしている。	○	重要事項説明書にホームの苦情相談窓口及び外部苦情申し立て機関（経営主体）を明示するだけでなく市町村の関連部課、国保連などの第三者苦情窓口を明示することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。 新しい職員が入る場合も利用者にきちんと紹介している。 離職をする場合には利用者の混乱を防ぐために告知することはしていない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修で認知症介護の専門職として継続した学習をしている。 職員は目標を立て自己評価をしながら取り組んでおり、事業所外で開催される研修にも多くの職員が受講し、全体会議で研修報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県やグループホーム協会の勉強会に積極的に参加し、情報収集や交流を行うことによりサービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前にホームへ利用者や家族に来てもらい、生活や室内の様子、レクリエーションを見学して雰囲気に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を支援するばかりでなく、調理の準備・盛り付け・下膳・洗濯物干しやたむ仕事にさりげなく誘導や声かけを行い、共に生活を送る関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや意向を一人ひとりに合わせた会話や観察、家族からのヒアリングによって把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の要望を聞き課題をスタッフ全員で話しあい、必要に応じて主治医と連絡を取り職員の意見も反映しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月に1回若しくは必要に応じて見直しを行っている。 新しい介護計画は利用者や家族の要望を踏まえて、介護日誌・職員からの気づきや意見を取り込みながら作成している。 見直し後は家族に説明し確認印をもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでの生活を継続し、利用者や家族の要望を出来るだけ実現するために通院支援や早期退院の交渉・入院の回避などを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム開設時よりかかりつけ医及び専門医と密接に連絡を取り合い、医療相談は月2回の往診または電話で対応している。 普段の体調変化も電話などで指示を受けられる体制がとられている。 家族来所時に気楽に確認や相談が出来る体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の将来の希望は日々のかかわりの中で確認をしている。 実際に状態の変化を感じた場合は家族の思いも考慮し、三者間で方針をまとめその後医療機関に打診して実践方法の共有化を図っている。	○	重度化に伴う意思確認書を作成し、終末に対する対応指針を家族・医師・看護師等を交えてルール作りをすることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に職員の意識向上を図るとともに日々の拘わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図り、プライドの高い利用者が孤立しないように声かけを増やしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。 また、無理強いすることなく利用者が希望する生活が送れるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1日30品目を目標に献立を立て、調理・配膳・下膳などを利用者と一緒に職員が見守りながら行っている。 利用者の体調に応じた献立を提供している。 また、職員は同じテーブルで会話や介助をしながら食事の楽しさを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特別な理由がない限り、回数にバラツキがないようにそれぞれ入浴曜日は決まっている。 一番風呂の好きな方、遅い時間の好きな方、毎日の入浴を希望される方等希望を取り入れて、羞恥心、恐怖心、負担感などにも配慮しながら入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じて得意な献立の調理や洗濯物たたみ・植木の水遣りなど張り合いや役割を持てるように支援している。 また、利用者が得意とする事を教えてもらい「頼りにされている」と感じられる取り組みをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候・気温・利用者の体調に合わせた散歩やドライブ・ショッピングに出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は施錠をしない目的を理解しているが安全のために玄関は施錠している。 事務室は見通しがきくように玄関の横にあり、玄関内側に人が立つとチャイムが鳴る仕様となっている。	○	以前は施錠をしていないことから、今後の対応は状況に応じて柔軟に対処していくことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震を想定し消防署への通報装置を活用しながら避難誘導訓練を実施している。災害時の飲料水・食料の備蓄を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に1日の食事摂取量を記入し情報を共有している。 摂取の進みが悪い人には定時以外の飲食を提供する支援をしている。 嚥下に問題がある人や制限食の必要な人には医師の指示のもとに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはBGMを流すとともに玄関カウンターには季節の草花を飾り、全館バリアフリーで安全に配慮しており、明るさは照明の強度やカーテンで調節している。 職員は大きな音や不必要な音、大声を出して利用者の不安感をあおる事のないよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は箆笥など持ち込めるスペースを確保しており、馴染みの品物で安心した空間が作れるよう配慮している。 入居時に利用者や家族と相談して使い慣れた品物を活用した居室作りの支援をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。